

# 崎山小学校の英語教育について

## 1. 概要

平成26年度より長崎県教育委員会研究指定(小中連携による英語教育充実事業実践モデル校)と五島市教育委員会の研究指定を受け、「伝え合う力を育てる小学校英語教育をめざして」という研究主題のもと、新しい英語教育の在り方について研究を行っている。

平成26年度「教育課程特例校」の申請を行い、平成27年度より特例校として特別なカリキュラムのもと英語教育を実践している。新設した「英語科」の概念を明らかにしつつ、授業改善に取り組んでいる。

毎週金曜日を「イングリッシュデー」とし、英語に関する指導は金曜日を中心に行い、児童が英語に慣れ親しむ機会を多く設定している。また、掲示物や備品等の英語環境の整備により、英語に親しみやすい環境が整いつつある。

学 年	授 業	モジュール(15分)		時数計	備 考
		ハロー崎っ子	ABCタイム		
低学年	外国語活動 10時間(月1回)	12時間 (週1回×36回)		22	生活科から10時間
中学年	外国語活動 23時間(隔週)			35	総合的な学習の時間から 23時間
高学年	英語科 35時間(週1回)		13時間 (週1回×39回)	60	外国語活動から35時間

## 2. 本年度の研究内容

### 研究主題

伝え合う力を育てる小学校英語教育をめざして  
～読むこと、書くことを含めた表現力の育成～

#### (1) 目標設定と評価方法の研究

英語科、外国語活動の目標と評価規準一覧表の作成

目標と評価の明文化により、崎山式英語教育の理論面を確立する。

#### (2) 授業展開の工夫

単語の導入(練習)法、英語を使ったゲーム指導の研究

よりよい英語授業について研究と実践を重ねる。

#### (3) 「読むこと」「書くこと」の指導法の研究

英語科授業やABCタイム(モジュール)における、音と文字のつながりについての指導法の研究

「読むこと」「書くこと」の指導にチャレンジし、よりよい指導法を追究する。

#### (4) 小中連携による英語教育の充実

崎山中学校英語教員と連携した授業

望ましい小中連携の姿を追究する。

### 3. 授業について（共通理解事項・役割分担・授業のパターン化・日課）

1・2年生，3・4年生の外国語活動授業は合同で行う。（今年度はA年度とし，1年生，3年生のカリキュラムを使用する）

基本的には1・2年生の外国語活動授業は第2週目，3・4年生は第1・第3週目に行う。

5・6年生の英語科の授業は毎週行う。

英語の授業は，学級担任が計画し，HRT・JTE・ALTとの打ち合わせも学級担任主導で行う。打ち合わせでは，当日の授業の最終確認と，次回の授業の内容確認を行う。主に「授業の目的」「指導内容」「指導手順」「役割分担」「使用教材」を確認する。授業全体を主導するのはあくまでも授業担当者である。

授業のパターン化と指導者の役割分担によって，児童の英語授業への安心感と，打ち合わせ時間の短縮を図る。

#### 【英語科における役割分担について】 主な役割

HRT	授業の計画，ゲームの指導
JTE	単語等の導入・練習，文法など専門的な指導
ALT	英語の発音全般，外国の文化に関すること

#### 【授業のパターン化】

	外国語活動（HRT・ALTの2人体制）	英語科（HRT・JTE・ALTの3人体制）
Warm up	1. あいさつ Greeting 2. 歌 Song 3. ALTのショートトーク Short talking <div style="text-align: center; border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px;">ALT 主導</div>	1. あいさつ Greeting 2. ALTのショートトーク Short talking 3. ボーナスイングリッシュ Bonus English <div style="text-align: center; border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px;">ALT 主導</div>
Main act 1	4. めあて Today's goal 5. 練習 Practice <div style="text-align: center; border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px;">HRT 主導（発音 ALT）</div>	4. めあて Today's goal 5. 練習 Practice <div style="text-align: center; border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px;">JTE 主導（発音 ALT）</div>
Main act 2	6. ゲーム Game <div style="text-align: center; border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px;">HRT 主導（発音 ALT）</div>	6. ゲーム or アクティビティ Game or act <div style="text-align: center; border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px;">HRT 主導（発音 ALT）</div>
Looking back	7. ふり返り Looking back 8. あいさつ Good-bye	7. ライティング Writing 8. ふり返り Looking back 9. あいさつ Good-bye

ボーナスイングリッシュとは・・・コミュニケーションで使える英語表現を追加して指導する。児童の要望をもとに教えたり，単元の最終的な児童の姿を見越して，必要とされる表現を指導したりする。

【イングリッシュデー（金曜日）の日課】

時 間	内 容	備 考
はきはきタイム 8:05～8:20	A B C タイム（5・6年）	6年にALT，5年にJTE が補助に入る。
	学級イングリッシュ（1～4年）	JTE が補助に入る。
1校時	1～4年外国語活動 授業打ち合わせ ハロー崎っ子打ち合わせ	低学年担任1名，中学年担任1名がALTと授業の打ち合わせをする。
2校時	5・6年英語科 授業打ち合わせ	5・6年担任はJTE、ALTと授業の打ち合わせをする。
3校時	5年英語科授業（HRT, JTE, ALT）	
4校時	6年英語科授業（HRT, JTE, ALT）	
どんどんタイム 13:35～13:50	ハロー崎っ子（全学年による英語集会）	担当者とALTで指導する。
5校時	1～4年外国語活動授業（HRT, ALT）	1・2年 月1回（第2週目） 3・4年 月2回（第1・3週目）
6校時	予備時間	低学年・中学年の授業が重なった時はこの時間に中学年授業を行う。

4．モジュールタイムについて

金曜日の朝のモジュールタイムは，5・6年生は「ABCタイム」（英語科の時数に計上する），1～4年生は「学級イングリッシュ」とする。（外国語活動の時数には計上しない）

ABCタイムには，ALTが6年，JTE が5年に補助として入る。

学級イングリッシュには，いずれかの学年にJTE が補助として入る。

ハロー崎っ子（英語集会）は担当者とALTとで行う。英語に慣れ親しむことを目的とし，英語を使ったコミュニケーションゲームが中心となる。高学年を活動の手本とすることで，高学年は上級生意識が高まり，下級生は先輩の姿に憧れるなどの相乗効果も見られる。

【モジュールタイムの活動内容】

活 動 名	対 象	主 な 活 動 内 容
ABC タイム	5 年 6 年	「読むこと」「書くこと」に関すること（アルファベットの名前と音，単語の読み方，アルファベットや単語・英文等のライティング），英語に関するビデオ視聴等
学級イングリッシュ	1・2年 3・4年	英語のあいさつ，英語の歌，絵本読み聞かせ，英語授業の復習，英語に関するビデオ視聴等
ハロー崎っ子	全学年	英語のあいさつ，単語の発音練習，英語の歌，英語を使ったコミュニケーションゲーム等

## 5 . 成果と課題

### 【成 果】

#### ( 1 ) 目標設定と評価方法の研究

英語科・外国語活動の理論研究, 評価基準一覧表の作成等により, 崎山式英語教育の具体的目標と評価が明確になった。

各学年の具体的指導内容が明確になり, 授業改善が進んだ。

#### ( 2 ) 授業展開の工夫

授業のパターン化, 役割分担の明確化により, 児童が見通しをもって学習できるとともに, 指導の効率化が図られ, 児童の理解が高まった。

中学校英語教師との連携により, 専門的分野からの意見を得ることができ, 授業改善とともに, 小学校教師の指導知識の向上にもつながった。

各種マニュアル( クラスルームイングリッシュ一覧, 英語での打ち合わせの仕方, ゲームで使える英語表現集 )の作成により, 教師の英語を使おうとする意識が高まり, 教師の英語力向上が図られた。

#### ( 3 ) 「読むこと」「書くこと」の指導法の研究

「読むこと」「書くこと」の理論研究を通して, 読み書きの目標を明確にすることにより, 共通理解が図られ, 指導の基礎ができた。

読み書きの指導の場として, 5・6年生の「ABCタイム」( 15分間のモジュール )を設定し, 実践を通して, 音の認識, ライティング指導の基礎的な研究が深まった。

#### ( 4 ) その他

小中連携において, 中学校英語教師とともに研究する中で, 専門的な情報が得られることはもちろん, 授業の在り方について専門的な立場からの意見を聞くことができ, 系統的な指導の大切さに気付くことができた。

全校英語集会( ハロー崎っ子 )の実践により, 児童は英語に慣れ親しみ, 学習意欲も高まっている。英語環境の整備により, 児童が英語にふれる機会が増え, 自然に英語に慣れ親しめてきた。

### 【課 題】

2年間の研究を通して, 崎山式英語教育の基礎を確立することができた。特に評価規準表とカリキュラムの作成ができたことは, 大きな成果であった。また, 小中連携の英語教育という未知の分野にチャレンジし, お互いに試行錯誤する中で理解が深まり, お互いのよさを生かした協働的な授業へと発展していったこともまた大きな成果である。

本校の研究は, 新しい英語教育の大まかな基礎はできたものの, まだまだ荒削りの面が見られる。そこへ磨きをかけることが今後の課題となる。具体的には, 今年度の実践で, 反省に挙げられたことを改善することである。

英語授業・ABCタイム・全校英語集会においては, 今後も実践をする中で, 改善が必要と思われる部分を改訂していく。また, 目標や評価規準についても定期的に見直しを図り, より理想的なものを追究する。今年度試行した学級イングリッシュ( 1~4年のモジュール英語 )については, 来年度は位置付けを明確にし, カリキュラムを作成することが必要になる。児童の実態を把握し, 新しいアイデアを計画・実践していくことも必要である。場合によっては, 基礎となる部分を作り直すことも考えられる。

本校の目標は「英語を学び続けようとする児童の育成」である。そのためには「今何が必要か」「中学校とどう連携していくか」を状況に合わせて柔軟に対応していく姿勢が必要である。

今後も理想的な小学校英語教育の構築に向けて, 適切な状況判断と謙虚な姿勢で研究を推進していきたい。